

履中天皇 反正天皇

則歌之

則ち歌して

【之】

則更還之

02

則ち更に還りて

太子自諒闇出之

太子諒闇(みものおもひ)より出でまして

自龍田山踰之

龍田山より踰へ

03

太子不知仲皇子自彘而到之

太子遠望之

太子、中皇子の自ら彘(おか)せることを知し
めずして到る

太子遠(はるか)に望みて

07

太子異之

何歩行急之

太子異(あやし)びたまひて

何ぞ歩行ること急(と)く

05

因隱山中而待之

則默之避也

因りて山中に隠れて待ちたまふ

則ち默(もだ)ありて避りたまひぬ

於是出伏兵圍之

令乘馬而逃之

是に伏兵を出して圍む

馬に乗せまつりて逃げぬ

08

太子到河内国埴生坂而醒之

將助以備兵待之

太子河内国の埴生坂に到りて醒めたまひぬ

助けまつらむとして兵を備えて待ちたてまつる

則急馳之

則吾子箠愕之

則ち急に馳せて

則ち吾子箠愕(お)ちて

問之

乃免之

問ひて

乃ち免(ゆる)したまふ

06

尋之追詣

自當摩徑踰之

尋ねて追ひ詣きたまへり

當摩徑より踰え

09

其仲皇子在之
其れ仲皇子在るは

10

大人何憂之甚也
大人、何ぞ憂へますこと甚しき

群臣及百姓共悪怨之
群臣及び百姓、共に悪み怨む

獨居之
獨り居て

未受太子命之
未だ太子の命を受けず

故獨慷慨之耳
故、獨り慷慨(ねた)みつらくのみ

唯獨懼之
唯獨り懼るらくは

爰瑞齒別皇子歎之
爰に瑞齒別皇子、歎きて

11

而誂之
誂(あとら)へて

乃脱錦衣禪與之
乃ち錦の衣、禪を脱ぎて與へたまふ

12

於己君無慈之甚矣
己が君にして慈無きこと甚し

14

詔之
詔して

即日黥之
即日黥(めさきぎざ)む

19

天皇異之
天皇異びたまひて

詔之
詔して

獲于掖上室山而獻之
掖上室山に獲て、獻る

20

始之於諸国置国史
始めて諸国に国史を置く

23

因以卜之
因りて卜ふ

以不黥飼部而止之
飼部を黥(めさき)せずして止む

24

亦呼之
亦た呼びて

天皇大驚之
天皇大いに驚いて

26

既而天皇悔之
既にして天皇悔い

以推問之
推(かむが)へ問いたまふ

因以数之
因りて数(せ)めて

既分寄于神車持部兼奪取之
既に神に分(くば)り寄せまつる車持部を、兼
ねて奪い取れり

既而詔之
既に詔して

乃悉收以更分之
乃ち悉(ふつく)に収めて更に分(くば)りて

29

於是二嬪恒歎之
是に二の嬪、恒に歎きて

天皇聞其歎而問之
天皇、其の歎くことを聞しめて問ひて

天皇悦其強力以喚之
天皇、其の強力あることを悦びて喚す

33

則汲之洗太子
則ち汲みて太子を洗う